

竹の子会の基本目標

1. 人間形成への修練
1. 地域社会への奉仕
1. 会員相互の親睦



竹の子会会報

No.598

竹の子会総務委員会

平成31年3月14日

例会（新年互礼会）

日時：平成31年1月22日（火） 場所：四鳥



総務委員会
副委員長
村林 壮太

第63期大垣竹の子会の2019年最初の事業であります、『新年互礼会』が1月22日（火）に料亭四鳥にて行われました。会員各位のご協力のもと、滞りなく事業を進め、終えることができました。まずは皆様にお礼申し上げます。新年の挨拶をかわすと共に、来期の常任予定者、大垣市青年のつどい協議会出向者紹介の中では、各予定者から来期に向けての熱い思いを述べていただきました。特別会員27名、現役会員22名の総勢49名の方に参加いただき、事業を盛況に行う事が出来ました。現役会員が特別会員の諸先輩方と膝を交えてお酒を飲み、お話が出来る数少ない機会であり、今年の席におきましても、貴重なご指導、ご鞭撻を受ける様子が窺えました。最後には1つの円となり恒例の会歌斉唱。第63期の折り返しを無事迎え、特別会員の皆様との楽しいひと

と時を過ごし、これからも会員一丸となって、まずは今期の残りの事業も素晴らしいものにしていこうと、会員一同団結できたと思います。

今年の干支は「己亥^{つちのとい}」と言い、新たなことを始める年、また始めるための準備の年、と言われております。奇しくも今年が平成最後の年で、5月からは元号も変わり新たな時代の幕開けとなります。特別会員の皆様のお話にも、昔と今の環境の違いや、継続することの難しさ、変化に対応することの大切さといったものが多く聞こえていた気がします。

この大きな転換点に大垣竹の子会の一員として立ち会えることに「感謝」と「運命」を感じております。変えてはいけないものを守り継続しながらも、一人ひとりが新しいものに挑戦していけたらと思います。来期に向けてより充実した会になりますよう、会員全員で盛り上げていきましょう。



第64期 会長予定者あいさつ



第64期
会長予定者
川上 祐輔

この度、会員の皆様から選任いただき、64期会長予定者となりました58期入会、6年目となる川上祐輔です。会長という役割に任命いただき重責を日々、実感しつつある毎日を過ごしています。

私は大垣市赤坂で3代続く木工所の長男として生まれ、祖父の代から地域社会に根付きボランティアというものに近い境遇で幼少期を過ごしてきました。

私の父親である川上たかひろは大垣竹の会のOBです。小さい頃から大垣竹の子会は知らない会ではありませんでした。子供の頃、クリスマス家族会に参加し、フォーラムホテルにて家族で食事をした事はいまだ鮮明に記憶に残っています。また、会の活動で父親が家庭にいない時も多々あり、家族の大垣竹の子会に対する印象があまり良くなかったのも事実で、記憶に残っています。

私自身も家庭の中で母親が嘆いているのを見ていたので印象はあまり良くありませんでした。家業である木工所を継ぎ、社会人になり様々なボランティア団体への入会を勧められた頃、一度大垣竹の子会への入会への誘いを受けたのですが、前向きでなかったのはこの様なことがあったからです。その後、入会した最初の頃は積極的に参加することは出来ませんでした。

しかし、6年の歳月を経てその印象は大きく変わりました。それは仲間と時間を共有する価値と父親

が会の活動に重きを置いていた理由に気づいたからです。

誰かのために損得関係なく何かをしてあげたいという気持ちは人間が本能的に持ち合わせているものだと私は考えます。他の団体や青年活動に関わることも無く過ごしている状況でも、その気持ちは誰しもが持ち合わせていると感じ、見かける事が多々ありました。

会の活動の中でもその気持ちを共感し持ち合わせる多くの会員と出会い、事業の中で苦しいと思う時にこんな自分の為に伝えてくれて、お互いがお互いのために何かをしてあげる関係を会の中で作ることが出来ました。そんな仲間と過ごす時間は自分においてかけがえのない価値のあるものになっています。それは父親が家庭にいなかった時間、身を置いていた会の中で感じていたものなのではないのかと考えるようになり、なぜなのか理解できるようになりました。

挨拶ということでもどうしても自分自身の境遇と会の活動で感じていることを皆様に知っていただきたいと考え、このようなことを述べさせていただきました。

会長予定者になった今、自分が入会前に抱いていた後ろめたい気持ちは一切ありません。会長として1年間活動していくなかで、会員、ひいては地元の大垣市、そして64年も続く竹の子会を作っていた特別会員の皆様、この会に関わるすべての方に見返りを求めることなく、自分ができることをしていくと決意しています。この気持ちを忘れることなく1年間、努力し邁進していきたい所存でございますのでご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。

第64期 事務局長予定者あいさつ



第64期
事務局長予定者
中島 康路

この度、第64期事務局長を務めさせていただくことになりました59期入会の中島康路です。川上会長予定者からの事務局長の話をしていただいた際、すぐに「やらせてください」と返事をさせていただきました。年齢も入会期も近く、同じ委員会でもお世話になった川上会長予定者から話をいただいたことは自分にとって大変嬉しいことでもありました。入会から5年が過ぎようとしておりますが、事務局長という大役を仰せつかるにあたり、非常に光栄なことであり、身が引き締まる思いです。今まで副委員長、委員長を経験させていただ

きましたが、さらに責任感を持ち、この職務を全うできるよう誠心誠意努力いたします。

手さぐりの状態の中で常任予定者と64期としての活動を始めておりますが、先輩方にご指導いただきながら、まずは素晴らしい64期のスタートが切れるよう尽力したいと思います。事務局長として会の円滑な運営はもちろん、川上会長予定者の熱い思いを副会長とともに支え、一緒に竹の子会を盛り上げていきたいと思っています。

まだまだわからないことばかりで、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、これからも皆様にご指導、ご協力いただきながら、全力で1年間頑張っていきたいと思っていますので、よろしく申し上げます。

第64期 副会長予定者あいさつ



第64期
副会長予定者
嶋 大将

皆さんこんにちは。61期入会の嶋大将です。

まずもって、この度64期副会長予定者としてご承認していただきありがとうございます。

来期で竹の子会に入会して4年目になります。まだ社会人としても、当会におきましても若輩者ですが、しっかりと役を務めるよう精進してまいります。

副会長のお話をいただいた時は、この大役を務めることに感謝と喜びが込み上げたのを覚えています。

このような機会を与えて下さった川上会長予定者、当会の会員の皆様、当会を築き上げて下さったOBの皆様に大変感謝しております。ありがとうございます。

当会では多くの事を学び経験させて頂きました。経験が価値観を変える、環境が人を変える。当会の事業を通して肌で感じた事です。諸先輩方から学

ばせて頂き64期の大垣竹の子会を盛り上げられるよう精進して参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくをお願いいたします。

ここからは自分の言葉で「血の濃い仲間」。私がよく口にする言葉です。

私の古くからの友人は、どんなに不利な状況でも駆けつけてくれる、困ったら助けてくれる、決して裏切る事のない一生の仲間です。

今この年齢になって普段の生活で、ここまでの仲間を作るのは難しいです。

ですが、大垣竹の子会ではそれができます。

当会の会員同士血の繋がりは無いですが、限られた年数の中で事業を通して会員同士相互の理解をし、親睦を深めて一生の仲間を作りたいです。

自己成長と共に「血の濃い仲間」を作れる最高の大垣竹の子会でありたいと思います。

最後になりますが、来期1年ご迷惑をおかけすると思っておりますがよろしくお願い申し上げます。



第64期
副会長予定者
今西 勇人

皆様こんにちは。第60期入会の今西勇人です。この度、第64期副会長予定者としてご承認をいただき誠にありがとうございます。入会してまだ期も浅い私が、伝統ある大垣竹の子会の第64期副会長という大役を務めさせていただくこととなり、とても光栄に感じるとともに、大きな責任とプレッシャーを重く感じております。

大垣竹の子会に入会し5年目になり、様々な役をやらせていただきましたが、まだまだ竹の子会の事を理解するのは難しく、副会長という大役を自分自身務められるか不安ですが、一つ一つ焦らず一生懸命努力し竹の子会を更に盛り上げていきたいと思っております。

川上会長予定者とはこれまでも何度か同じ委員会

になった事も多く、竹の子会についてたくさんの事を教えていただき助けてくれました。今度は私がサポートし川上会長予定者を支える番です。1年間という短いようで長い任期の中で会長にしか味わえない充実感や、達成感があるかと思っております。しかしその反面、様々な苦労や辛い事があるかと思われまます。そして時には涙する事もあるかと思っております。そんな時には嬉し涙に変えられるよう精一杯お支えしたいと思っております。64期の任期を終えられた時、川上会長予定者に私を任命して良かったと思っただけのような全力で頑張りたいと思っております。しかし、そのためには個人の力だけではとても足りません。会員減少という厳しい時代だからこそ竹の子会員の皆様、特別会員の皆様のお力添えとご指導の元、初めて成し得る事だと思っておりますので、皆様のご協力のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

お誕生 おめでとうございました。

中島 康路君に

長男 奏汰(かなた)君が生まれました。

平成31年 1月30日

第48期 大垣市青年のつどい協議会 会長予定者あいさつ



第48期
つどい会会長予定者
金山 幸生

第54期入会の金山幸生です。この度、第48期大垣市青年のつどい協議会会長を務めさせて頂く事となりました。先輩方が作り上げてきた、この伝統と歴史ある大垣市青年のつどい協議会の会長を務めさせて頂く事を非常に嬉しく思うと共に身が引き締まる思いです。

平成が終わり、新しい時代が始まります。生活は素晴らしく便利になり、様々な新しい文化が生まれ、娯楽は多種多様化し、時代は平成元年とは比較出来ない程変わりました。しかし、大垣市青年のつどい協議会は今期で48期目を迎えた今でも変わらず、大垣市と大垣市に暮らす人々に寄り添いながら、先輩方から受け継いだ古き良きつどい魂を胸に今まで活動して参りました。ですが、この新時代の幕開けに、大垣市青年のつどい協議会も変わる時、変わらなければいけない時が来ました。この、第48期大垣市青年のつどい協議会は加盟団体が前年度より3団体減った、6団体でスタートします。そして、この大垣市青年のつどい協議会の手で長年にわたり育てて来ました、三大事業と言われる事業のうちの二つの事業、みどりの街づくり写生大会と十万石ふるさとまつりが本年度から我々の手を離れる事となります。昨年、市政100周年を迎えました大垣市にて、約半世紀にわたり市民の皆様様に愛され、先輩方や私自身も携わった思い出と思い入れのあるこの事業を、大垣市青年のつどい協議会にて行う事が出来ないのは残念や悲しみと言う言葉ではならず、どう言えばいいかわからない喪失感を私自身感じております。ですが、各加盟団体の会員が減少する中、この三大事業を従来通り行い続ける事は、各加盟団体と所属会員個人に更なる負担増大を課し、会員減少とつどい離れの加速、そして大垣市青年のつどい協議会の消滅につながってしまいます。断腸の思いでの決断ではありますが、大垣市青年のつどい協議会と各加

盟団体の存続と発展の為、また大垣市青年のつどい協議会の新たな在り方への道筋を開拓する為に、この決断が決して後ろ向きな決断となる事無く、前向きな決断であったと言える様、私自身この一年をつどいの為に尽力する所存です。

そして、この大垣市青年のつどい協議会は本当に素晴らしい会で、私自身つどいが本当に大好きです。しかし、加盟団体全ての人が私と同じようにつどいの事業を楽しみ、好きではなく、少なからずつどいに参加する事を負担に感じている方もみえるかと思います。ですが、この大垣市青年のつどい協議会のように、同じ志を持った仲間達が集える場所というのは、私達にとってとてもかけがえのない場所です。もし、つどいが無くなってしまえば、私達は同じ大垣市に在る青年団体にも関わらず、交流する場を失い、つながりを失います。それでいいのでしょうか？私達自身の手でつどいを無くしてしまう事は簡単です。無くなってしまったつどいを新たにつくる事はできませんが、今のつどいを私達の手で変える事はできます。そして、つどいは私達だけのつどいでは無く、次の世代にも伝えなければなりません。つどいの火を消さず、バトンをつなぐ為にも私達は今まで以上につどい、そしてつながる必要があります。今期のスローガンを常笑とさせて頂きました。常笑とは、私の任期の一年だけではなく、つどいが存在する限りつどいに関わる全ての人が、つどいを楽しむ事ができ、常に笑顔溢れる会にしたいという思いでつけました。そして、誰からも愛されるつどいにしたいと思っています。この一年で実現する事は難しいかもしれませんが皆で同じ方向を向き、力を合わせれば決して不可能ではありません。つどいの火を激しく燃やし、決して消える事のない炎にする為に力を合わせる時です。その炎が作り出す上昇気流に乗り羽ばたけば、必ず成し遂げる事が出来ます。そして、つどいの為だけには留まらず、各加盟団体や所属会員の皆様の為になると信じています。一年間、皆様の力をお貸しください。よろしくお願いたします。



3 4 月の予定

交通遺児チャリティーゴルフ大会

日 時：平成31年 4月 4日 (木)
場 所：養老カントリークラブ

3月度例会(会員親睦会)

日 時：平成31年 3月27日 (水)
場 所：粕川オートキャンプ場

4月度例会(奉仕例会)

日 時：平成31年 4月21日 (日)
場 所：玉池公園